

淀川兩岨一覽

船之部

下





阿久乃神社 芥川村あり延喜式に出雲の生土神と云今住吉明神と稱す

芥川古城 右月村あり古跡と云今河内と云貞和三年康安の頃芥川

右馬立くん居一三河守の始り希雲の細川高国を殺す  
年中三好希雲第三男孫治郎長則あり據り希雲の細川高国を殺す  
され長則の路の百万遍と云自殺其子孫十郎あり據り天文廿二年  
八月長慶と云と云孫次郎儀與と云と云と云細川六郎織田

七兵衛土岐山城守又あり據り

松永彈正久秀故居 東五百住村あり 鴨神祠 赤小路村あり

津江兼師 津江村あり本を瑠璃光佛の行基の作るる靈驗あり

○唐崎 芥川の下にあり此地に近郷の諸荷物運送の場ありて問屋商家あり

三嶋若宮祠 唐崎村あり赤神八幡春日三島江の社の若宮あり



三嶋江

川渡也

汐とやき

り

芦の角

猿雖

河花

春霞とてある

かたははのふの

ほのやまの

けつろくさん

菅原頼家





○三嶋江 唐々此村の下にあり番田村より出たり水上凡二十丁とあり

川辺に多きをありて船級とあり又船客の傍手よりて此所より上りたり或は重なりて此岸に船とつり上下りり同

此所より大坂まで陸路行程四里

此地のりり三嶋江或は三嶋江浦玉江とて和歌の名所

代々の勅撰にまゝ室や淡川の流れと帯て浪花より京師よ

通ふ船夜より登りて櫓拍子は哥謡ひて下りあり

登る有引船の船長くわん船紐く鉄車とて音涼しく引

つる水まの足並ゆつれ若向の船をくわん時々の二聲よ

驚忽として人々眠と賞は頃初雁のかりく千鳥さく霜

さし夜みみ此三嶋江の風流く何れも和歌の種さぬは

三嶋江の入り口の流ありて我と君とひたりて

二内江の流の薦とありておのどとどわつと外も

三嶋江渡口 島上郡三嶋江村より河別渡田郡出口村の岸へ渡川とて舟と

三嶋鴨神社 当社に伊豫のこゝろ伊豆の三つ是と三箇の三嶋江あり

祭神事代主命 本社五座本社に左右三列ありて上りあり

風土記云御嶋神社に大山積命と難波高津宮御宇此神百濟國



柱本  
稻荷祠

柱本のつらゆの出来  
 霊験ありとてきまつ  
 えんま  
 糸紡とゆて手せりて  
 ちか燈籠並みの寺附  
 人多し

石のつらゆの  
 人まじ物く土砂と  
 さ(通舟の役と  
 よくは

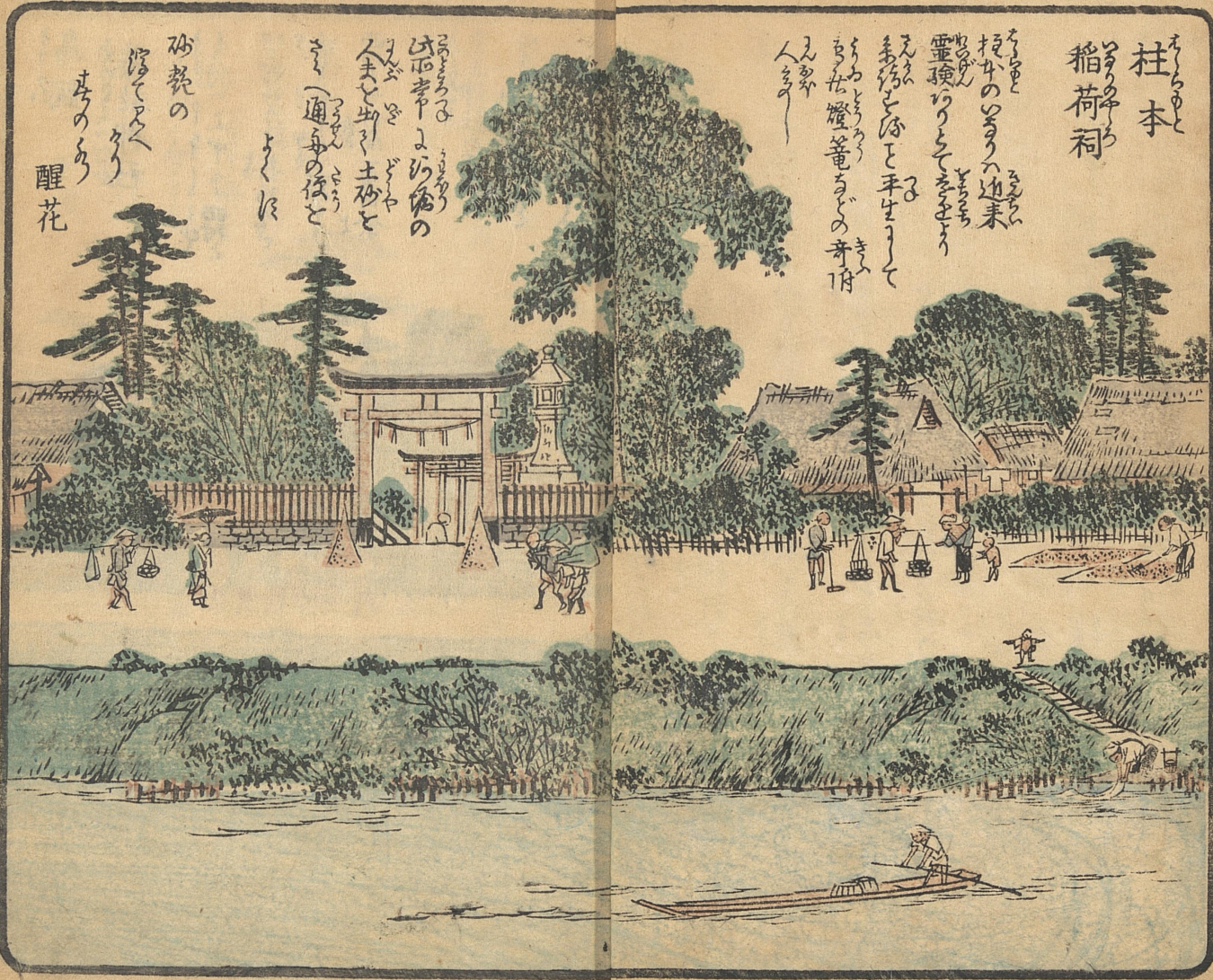
砂鉄の

浮てん人

たり

まのち

醒花





鳥飼

藤杜神社

鳥飼のりつへんや  
藤杜のりつへんや  
鳥飼の上中下村と

鳥飼のりつへんや  
鳥飼の上中下村と  
鳥飼のりつへんや

鳥飼のりつへんや  
鳥飼の上中下村と  
鳥飼のりつへんや

鳥飼のりつへんや  
鳥飼の上中下村と  
鳥飼のりつへんや

鳥飼のりつへんや  
鳥飼の上中下村と  
鳥飼のりつへんや

鳥飼のりつへんや  
鳥飼の上中下村と  
鳥飼のりつへんや

鳥飼のりつへんや  
鳥飼の上中下村と  
鳥飼のりつへんや

鳥飼のりつへんや  
鳥飼の上中下村と  
鳥飼のりつへんや

鳥飼のりつへんや  
鳥飼の上中下村と  
鳥飼のりつへんや

鳥飼のりつへんや  
鳥飼の上中下村と  
鳥飼のりつへんや

鳥飼のりつへんや  
鳥飼の上中下村と  
鳥飼のりつへんや

鳥飼のりつへんや  
鳥飼の上中下村と  
鳥飼のりつへんや

鳥飼のりつへんや  
鳥飼の上中下村と  
鳥飼のりつへんや

鳥飼のりつへんや  
鳥飼の上中下村と  
鳥飼のりつへんや

鳥飼のりつへんや  
鳥飼の上中下村と  
鳥飼のりつへんや

鳥飼のりつへんや  
鳥飼の上中下村と  
鳥飼のりつへんや



歌城



より渡来し給ひ津國御嶋に坐落と云

片葉蘆 とまり又其性とてけり若立より片葉を生ぶりの多しあつた

玉川 三島江村の西の方西面村の田畔の中ニあり名所六ツ玉川の其一なり  
土人云中秋の月此流水より流る時ハそのガニツヨク見ゆと云

和歌 玉川の里と云く流り 卯花 時多 樹衣 月 萩 氷柱 氷

露 時 あつね里ハ玉川より流るまの道根と云川ハ白ち 定家

集 見 とせむ波の柵かけくろり卯花流る玉川の里 相模

柱本 さう上の所收ハそより上收村あり共ニ延喜式ニ出

淀川 の流あつての辺りより土砂多く滞りしやあつたふ瀬と

客 の聊の助力と云ふれば昼船ハ人夫のちりし任やく直ふ

錢 と出るといふも夜船ハ各熟睡しれば河堀の男がせりしき

声 と云と破れれ詢きまゝに村布の口と開くはり成る虚睡して

是 と遁んとする白痴あつたれと正直の乗合がらと員へて個と



浅き川に舟を渡すに河原の男は渡りて此舟中の風俗を

○鳥飼 柱本村の下にあり此所より河原より舟を渡す下郡とのみ

水上凡十五町上も舟より平も舟と水上凡三十二丁とあり  
出所より大坂へ陸路行程三里

散木 あまのめいれら舟の船とそとそと舟とそと舟とそと舟と 俊頼

鳥養宗慶跡 右山村にあり今も其苗孫下り

宗慶の鳥養氏富村の人あり書と能く世に名高し初め御家

流とそとび後一家とそとび是とも養流と稱し後と宗嘯といふ

馬嶋 柱古御牧の古跡あり

鳥飼御牧 右馬鳥敷 延喜式曰凡諸節及行幸應用國飼御

馬者勅量須敷奏聞乃下官符令進唯牧放飼馬者寮

移當國即令牧子牽送 但摂津國鳥飼牧豊嶋牧 凡國

飼御馬者摂津國十足 右寮 又同式曰 摂津國鳥飼牧 左寮

土佐日記云二月八日夕成川の舟りたる舟もそとそと舟の舟とあり

鳥飼渡口 下鳥飼より河原渡田和村渡川とそとそと舟の舟とあり

藤杜神社 も舟西村にあり此地五ヶ村の生土井に山列の表崇道神敬天皇  
と秋清の例祭九月九日同所は二本松天満宮と稱す



あり昔公筑武事と申下向の... 六月廿五日又き村中... 招美徑松踊で... 名木あり

○輪道 同下りの... 柳島 輪道村の前... 輪道村の

○一津屋渡口 島下郡一津屋村より河川渡田郡八番村に渡川と云ふ... 渡の長サ三百世間と云ふ下鳥飼より此正まで水上凡廿五丁

○神寄川 一津屋村の傍より渡川の流れて西に分れ吹田神寄と云ふ大和田と... めぐり海へ入る... 唐船へ... 聯日記

○江口渡口 右津清川と云ふ一津屋村より江口村への舟... 江口村の郷保田中氏... 元龜年中の古牒あり其文曰

渡舟之儀昼夜令弛之糸高村之事允妨存藉一切

冰分除之若撰俸存之可成敗之状如件

信長判

○江口 江口の形... 泉列塚の津... 耕作の地... 統日本紀曰天平宝字三年十二月高麗の使高南甲難波の江口小

菅家集 川末の江口より芦鶴の... 菅家

○君堂 同村より日蓮宗宝林山寂光寺普賢院と号し女僧住職... 按さん江口の諺の文善より後世

○江口君像 本堂より長き又やう座像其餘普賢菩薩の尊像と云ふ... 又竹室西行法師の和歌あり

山深く... 西乃



江口  
奇墳  
君堂

君堂

草美

心

危

魯白

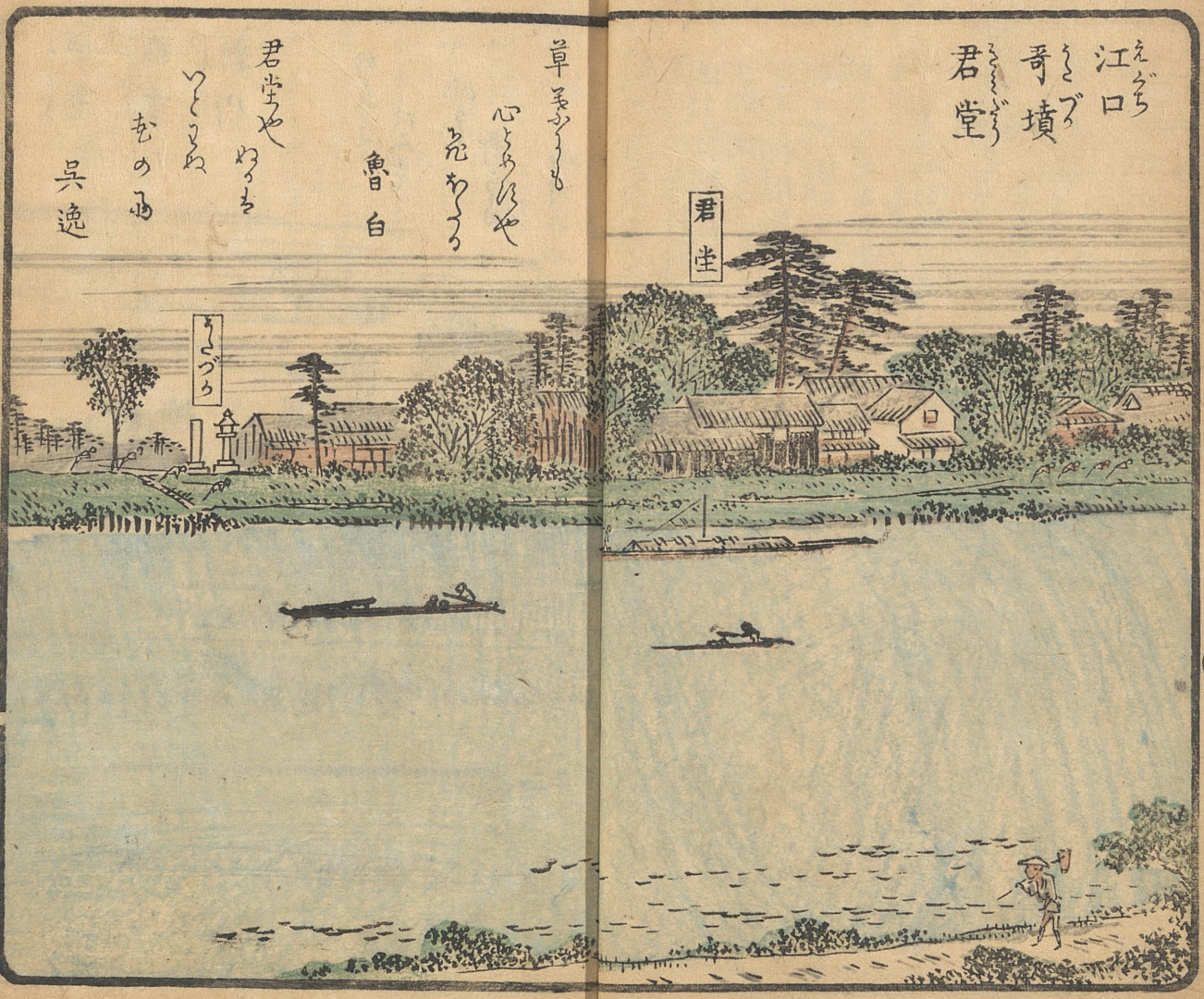
君堂也

ね

つ

書

吳逸



○  
河  
上  
九

○  
河  
上  
八



逆巻  
橋寺  
新川

ひまよ  
たんそ

海  
折

山川

逆巻より平田までの

向渡川の内は流作

のそ川條二條

日ろと新川といふ

は五峯より流の人ま物

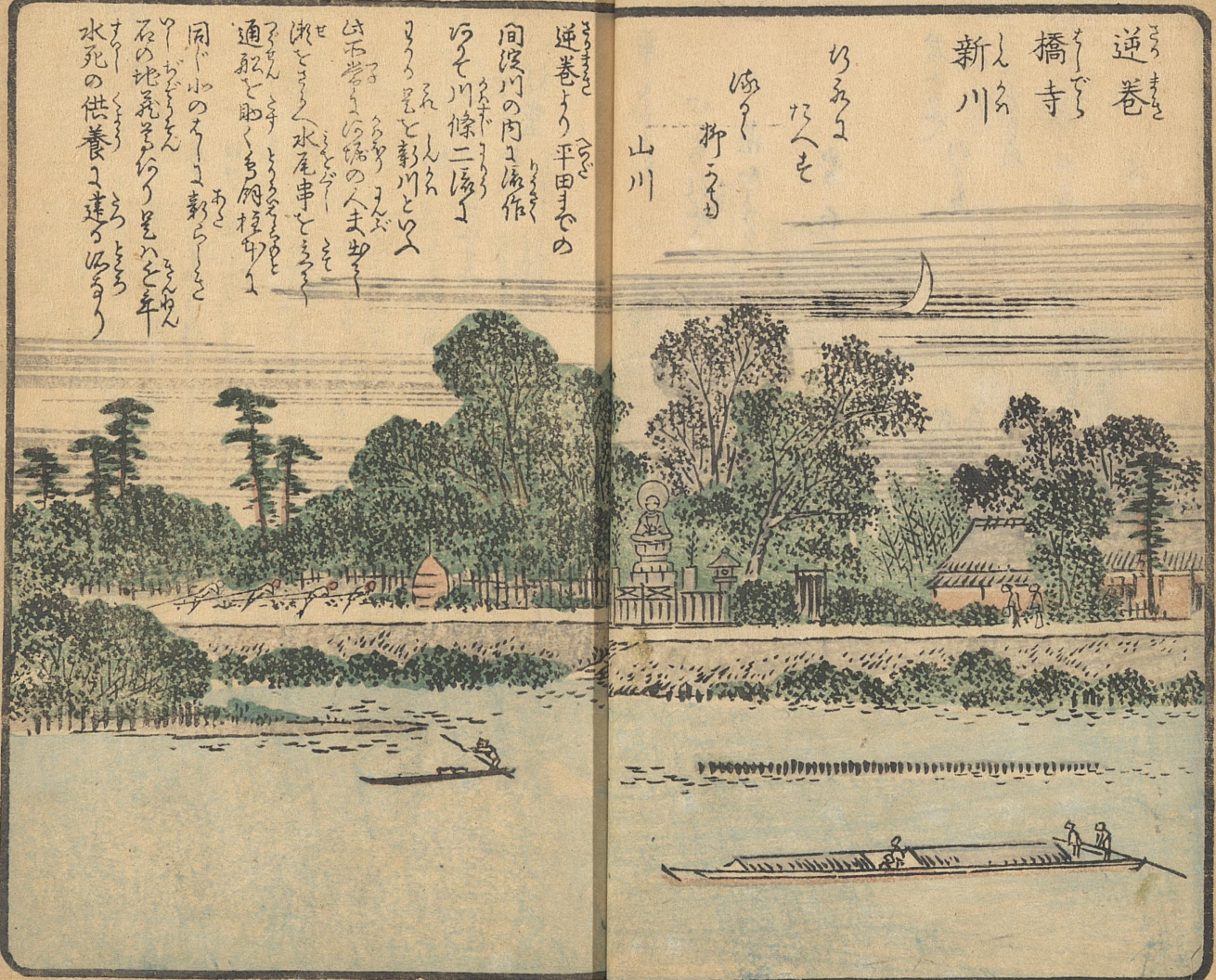
流とて水尾串とて

通船とて舟も船楫の

用は川のそと新ら

石の地花をけり是れを平

水死の供養と建つは



六三



江口城墟

江口の村甲田中氏の家其古跡ありと云

哥墳

天文年中三好宗三の塚と云  
同村南の堤にあり新古今贈答の和哥と石刻して建す  
北の方へ西行法師の寺南の方へ花女妙の寺

天皇寺へまのり付るふねと云ふはあつたれが  
白くやと云ふはあつたれは淡竹

新寺

世の中といふまじきとてあ後の宿といふむ君が 西行法師

同

世といふ人々あ後の宿といふむ君が 花女妙

江口尼古蹟

江口村の江口村より旧趾詳るべ尼の軒に西行撰集抄ありと云  
見こころに要る

辻堂

江口村の西成郡辻堂村より河川淡田郡下流村より  
下流あり

逆巻

北大道の属邑に 橋寺 南大道村の下流あり

平太渡口

河洲西成郡平太村より同東生郡今市村へ淡川と云ふ舟渡あり  
今市の云々云平太より大坂へ舟程九二里

三番

平太村の下流あり江口より  
此寺で水九三下ト云

二重新家

三番村の下流あり淡川より三番より  
此寺で水九三下ト云

紫嶋

増島の下流あり俗に國書と書り紫嶋と書り此島と云ふは  
字義詳るべ一説に紫嶋と書り此島と云ふは

晒堤

紫嶋の堤より此地淡川の辺あり流れを汲んで中津をさし  
これと紫嶋と云ふは

白妙

白妙と云ふは

松林

松林と云ふは



柴嶋

晒堤

半篙春碧

滑無聲坐

撫青山遞

送迎水路

日長人易

困雲間喜

認出金城

五川の神の

花のふ

くまの

こく一泡の

布の白鳥

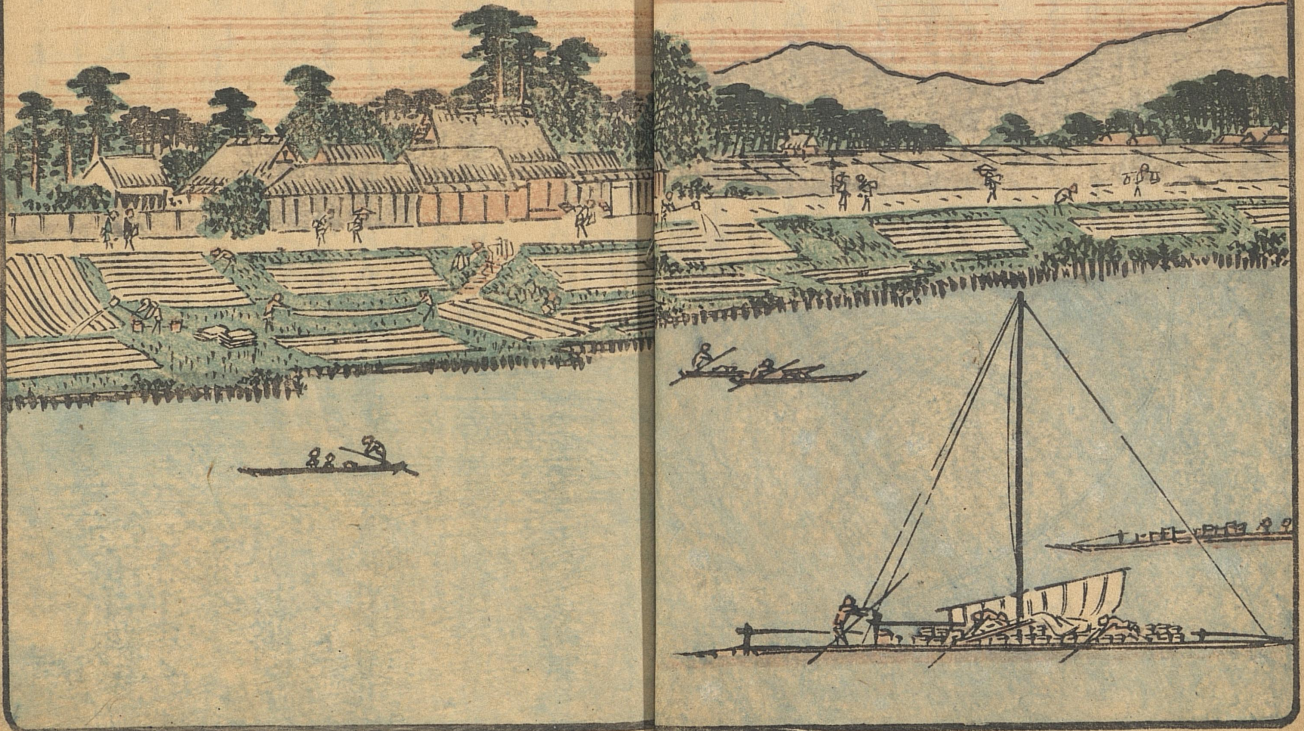
鶏成

下萌ヤ

つとての

船の跡

芦泊



一  
二  
三  
四  
五  
六  
七  
八  
九  
十  
十一  
十二  
十三  
十四  
十五  
十六  
十七  
十八  
十九  
二十

一  
二  
三  
四  
五  
六  
七  
八  
九  
十  
十一  
十二  
十三  
十四  
十五  
十六  
十七  
十八  
十九  
二十



長柄川

柴橋村の下り一名中津川より後川第二の支流なり北長柄村より西よ  
り北長柄村より西よ  
り西よ  
り西よ

長柄渡

柴橋村より北長柄村より舟より渡り長柄の長サ一里間云  
二重新築より西よ  
り西よ  
り西よ

陽をよむ  
り西よ  
り西よ

来山

○北長柄

右川の南岸より北長柄村より西よ  
り西よ  
り西よ

長柄橋跡

此橋の跡古来より  
り西よ  
り西よ

接ぎりふ上古の文物浦より東北に里南の福島浦に曾根崎より

北の神崎川まで一面の大沼なり程は丈の長なり是と羅波江

の中は嶼多あり今村里の古名の遺り所謂南中

嶋北中嶋の中は橋本柴嶋濱川口小嶋等とも水邊の郷名なり

長柄橋の孝徳天皇  
人王  
長柄豊崎宮の御時より彼嶼を架りて

して皇居への通路とせり今讀は長柄橋の長サ一里なり

と云傳くは是一橋の名よあはびし嶋より橋へし

其橋の數許多あれは地名より皆長柄橋といはるは

古来より今も北長柄より豊嶋郡兼水庄に至るまで長柄の

橋跡と言つてふされは橋杭と稱する朽木所より堀出の草なり



長柄三ツ頭

長柄川

同渡口

まじしと

えとと

まふ

形も

ゆき

まじしと

まじしと

まじしと

まじしと

まじしと

まじしと

まじしと

江カ  
行成

三ツ頭

淀川

けまのり

淀川



三ツ頭

三ツ頭



其の一挙を以て是より一築の橋ありと知べし長柄豊崎宮  
 孝徳天皇崩れまゝの後に大和國飛鳥宮へ遷都しつゝ橋の  
 修理も怠り同威の時江海激流しつゝ落損せしむる夏より  
 其のち嵯峨天皇入皇の御宇弘仁三年夏六月再び  
 長柄橋と造らむ後世に遠く神守川長柄川天満川と  
 水路分りて江海ありて田圃と變じ今の如く村里と  
 ありて粟田と變じて海とありて大なる益あり

毛馬渡口 渡の長九十九間ト云此亦一慈愛ありてねる一

○南長柄 北長柄村の下にあり村中の北田圃の中ニ  
 常流あり有未由詳あり

鶴満寺 南長柄村にあり天台律宗 本尊阿彌陀佛  
 雲松山慈洋院と号し 慈覚大師作長  
 四尺許

観音堂 又堂下と其國の冥場の土とつらなり布を建てて  
 長門の國主毛利美より寄附なり往昔城下の近土中より掘出たり

梵鐘 鑄銘彫銘あり原の異國の器物なり鑄銘云大平十年二月云  
 境内は大樹数株あり花の盛りに幽花とて騷人墨客打ひれり

糸櫻 周佈し乘り又此様の傍に鬼貫の墓壹鷲の塚あり

國分寺 國分村にあり真言律宗 本尊阿彌陀佛 聖徳太子御作  
 正岡山金剛院とあり 座像長三尺五寸許

不動堂 門内の西傍にあり 地藏堂 同東の傍にあり  
 赤不動尊と稱し 敷石地藏と稱し 當寺ハ國母の國分

下二十五



木村堤  
樋之口

櫻宮行棗

正花多笑

語聲流春

夜波紅燭

青簾何處

客猶停遊

舫在橫坡

鳥家意

殿道よ

能とれ

命

天のうら

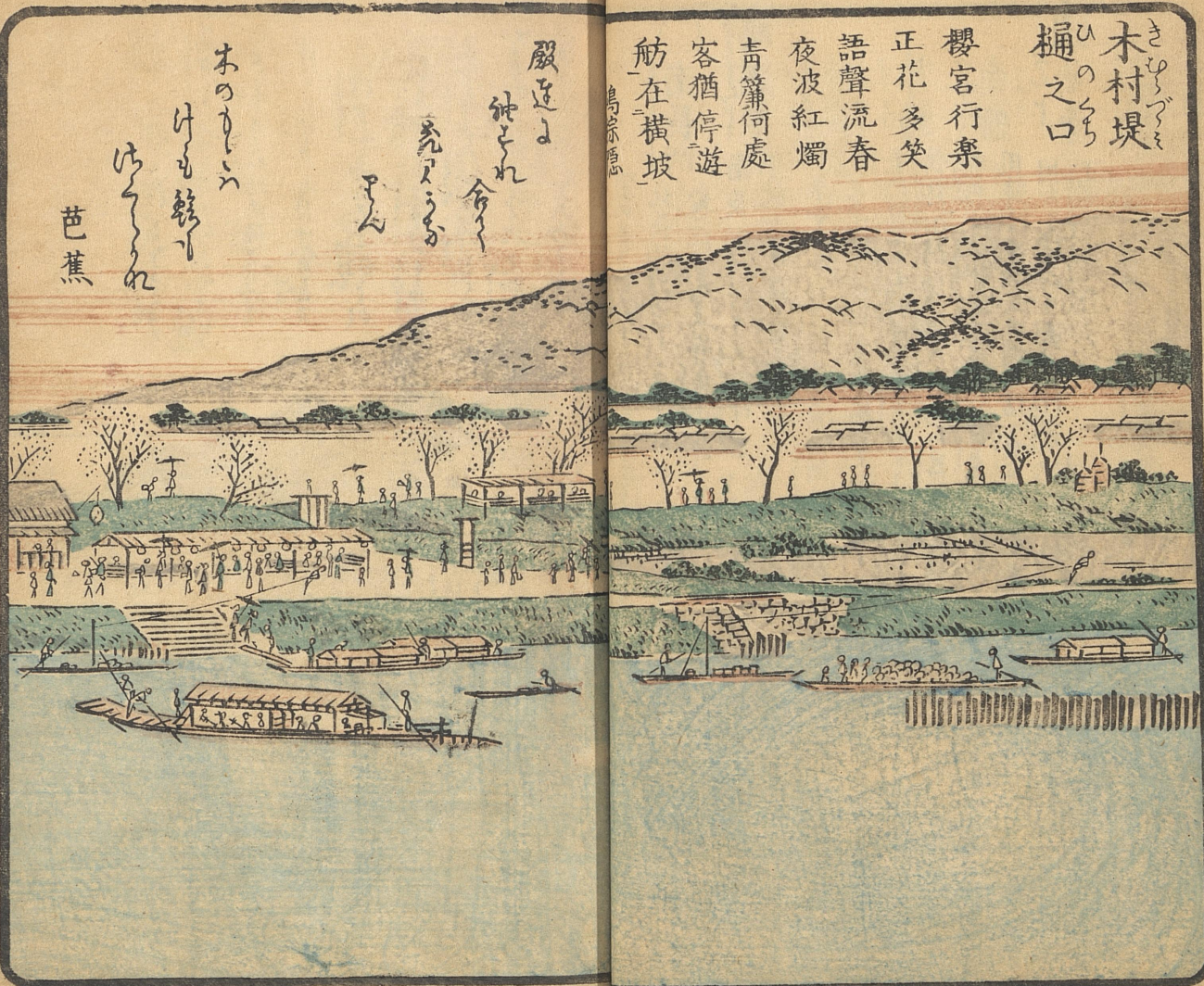
子ん

木のむら

けも終り

はてしなれ

芭蕉





其二

上々の船は横倉とて死  
中へ極々及ばざりし  
の心なきれ冷の強き  
三月十三日よふ九月十日  
まは横倉とてふらと例  
されが年老なる孫若く  
まとて海風の飛来ふ  
おそれふとてとれと柳  
集の老翁んとこのうか

骸骨の上を

よとつて見ん

さしぬき

ほひ

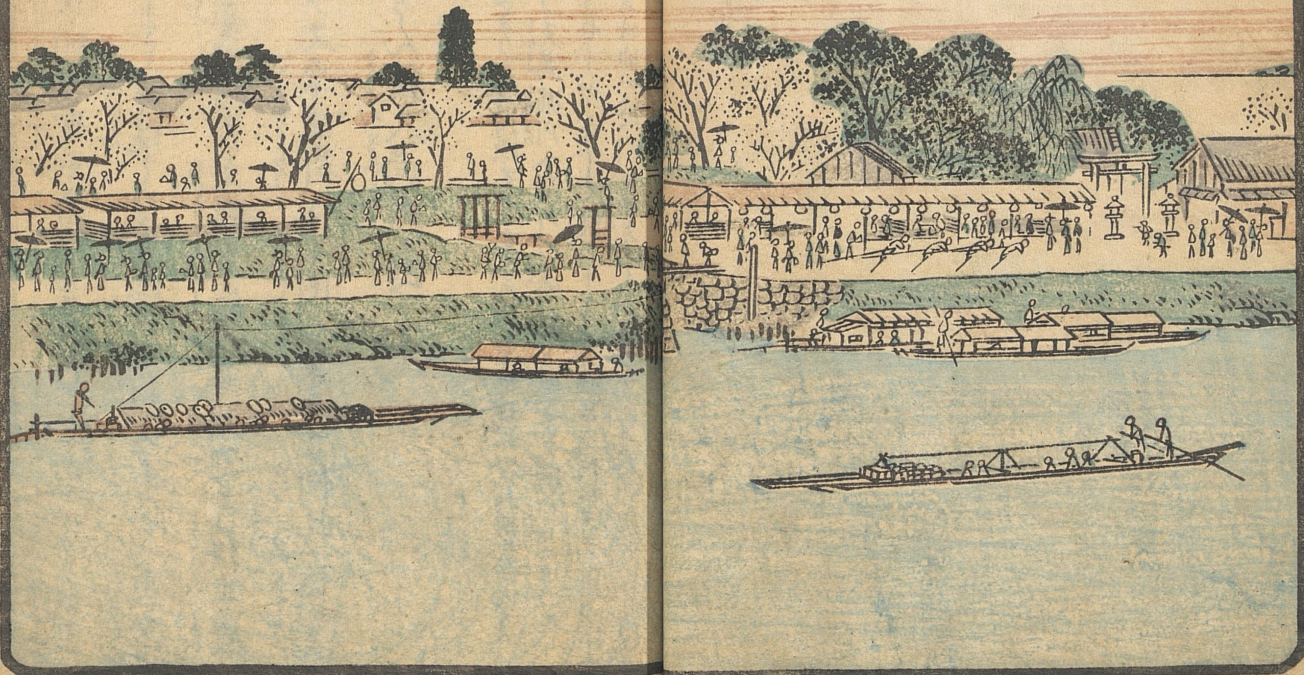
半休

川所  
下戸の著

し

あし

綱





寺の其一箇寺やて本願の聖武帝開基の行基僧正より荒無  
の後快圓比丘中興して律院とてなる国分寺料の一万辛  
束其外施料の事延喜式に文徳實録にも見たり後世廢  
今僅に存せり又東生郡に国分寺あり何れ一箇寺に  
国分尼寺の旧蹟も後人尚考ふべし

○国分寺 南長栖村に隣り則ち

右国分寺の村里あり濱村涼光寺鬼子母神堂権現松林此所の西あり  
樋之口 国分寺村の下にあり天満堀川へ渡川の流れと通じり樋の口あり  
近幸麻鑿の川あり川とて樋の下に天満宮の祠あり  
右樋之口の邊にあり此池は渡川の西なりと云ふ

源八渡口

樋の口の西にあり西成郡 天満源八町より東生郡中野村へ渡川と  
なり

○川崎

中藏印材木藏印屋敷方川岸に建列し此西に萩とあり  
洪水の時、川崎の川は下りぬる皆ひりり客と上りたり  
北長柄三ツ頭より西あり水に上り凡五丁とあり

川崎御宮

東傍にあり 元和年間松平下総麩創建し給ひ三江  
和尚寺務し九昌院建國寺と号し禪宗洛陽建仁寺に  
属し御例祭四月十七日此日雑人の系譜と許し是より

浪花市中の言も更なり近郷の貴賤群集し川岸に出



源八渡口

碧波蕩々

拓堤流風

冷櫻林搖

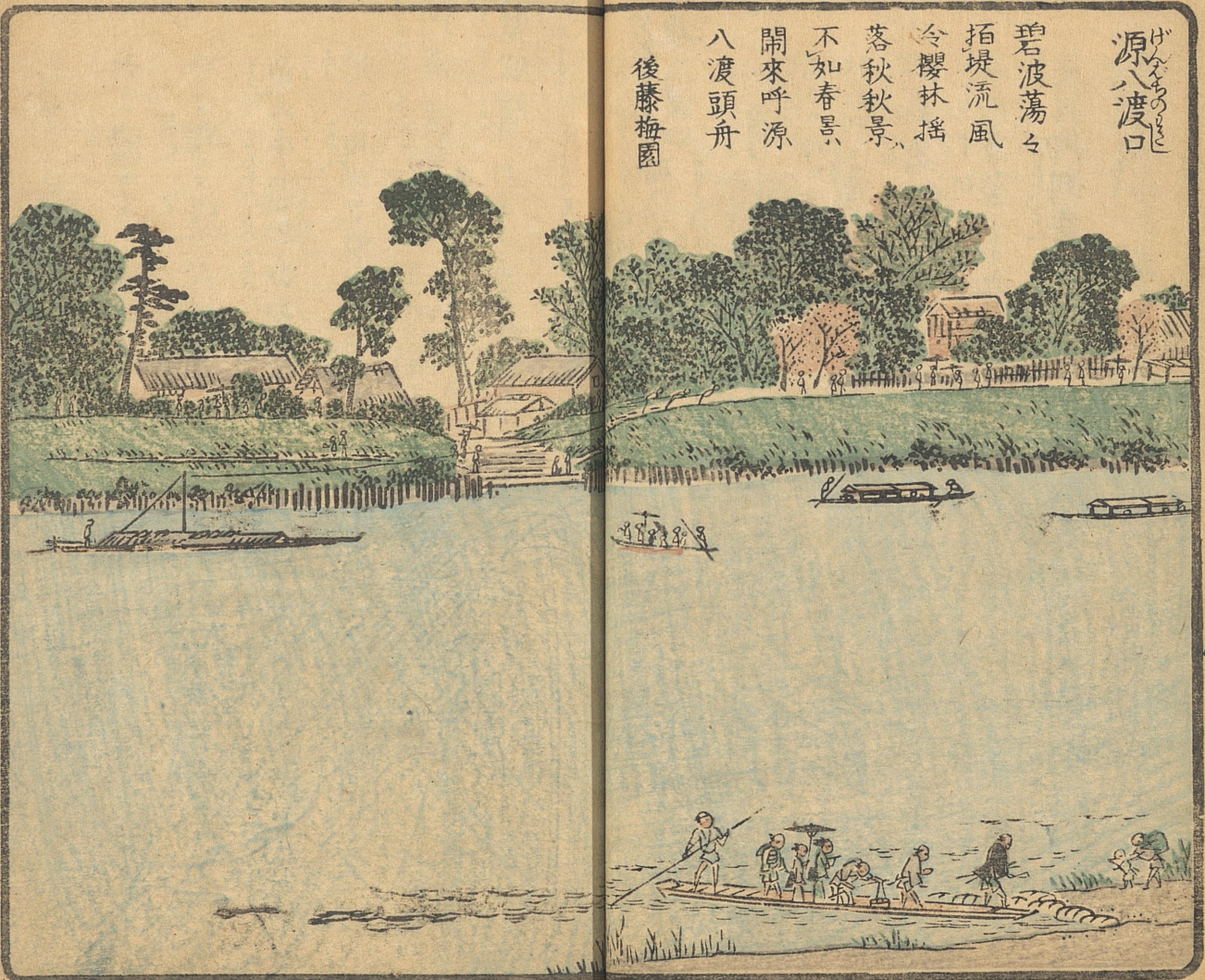
落秋秋景

不如春景

開來呼源

八渡頭舟

後藤梅園



源八渡口

源八渡口



遊宴一渡船一幸て東堤に我松宮小舟をり或東堤より

西に渡りく糸緒をりありて兩岸の賑ひ言語小絶せり

さる程に堤より懸茶店つらうり貨食店菓賣とらふ

童の手遊む花かんざし鬻ぐ男も所せとまて打群

恰も舟のりゆり如く首夏第一の大紋日かり

川崎渡口 天満川寺町の渡より御城松のトホ

監船所 川崎より渡川船方の番所

北詰へ天満二丁目南詰へ京橋二丁目より入川上第一の大橋より長サ

此橋下り淀川の流れ西に曲折く水勢つらうり上船の水主ホ

力と尽しく棹を下船に押流されど船とまらして大切と下

是と艦下り 淀の小舟も又同じ是るらんらやまらて船

徒然草曰高名の木上りと言ひ男人と提ぐる木よ上せて梢と

伐せし甚危く見入程の言ふとも下る時軒ぐけ許ふ

成り過ぎる心してとらうり言葉と掛ぶらうりと斯く成て

下るも下らん如何か言ふと申侍りて其言ふ目

らるる枝危き程に己がわをれはれが申され過ちの安さ

下りて



川崎濱

難波人

ゆきや

花さうり

分

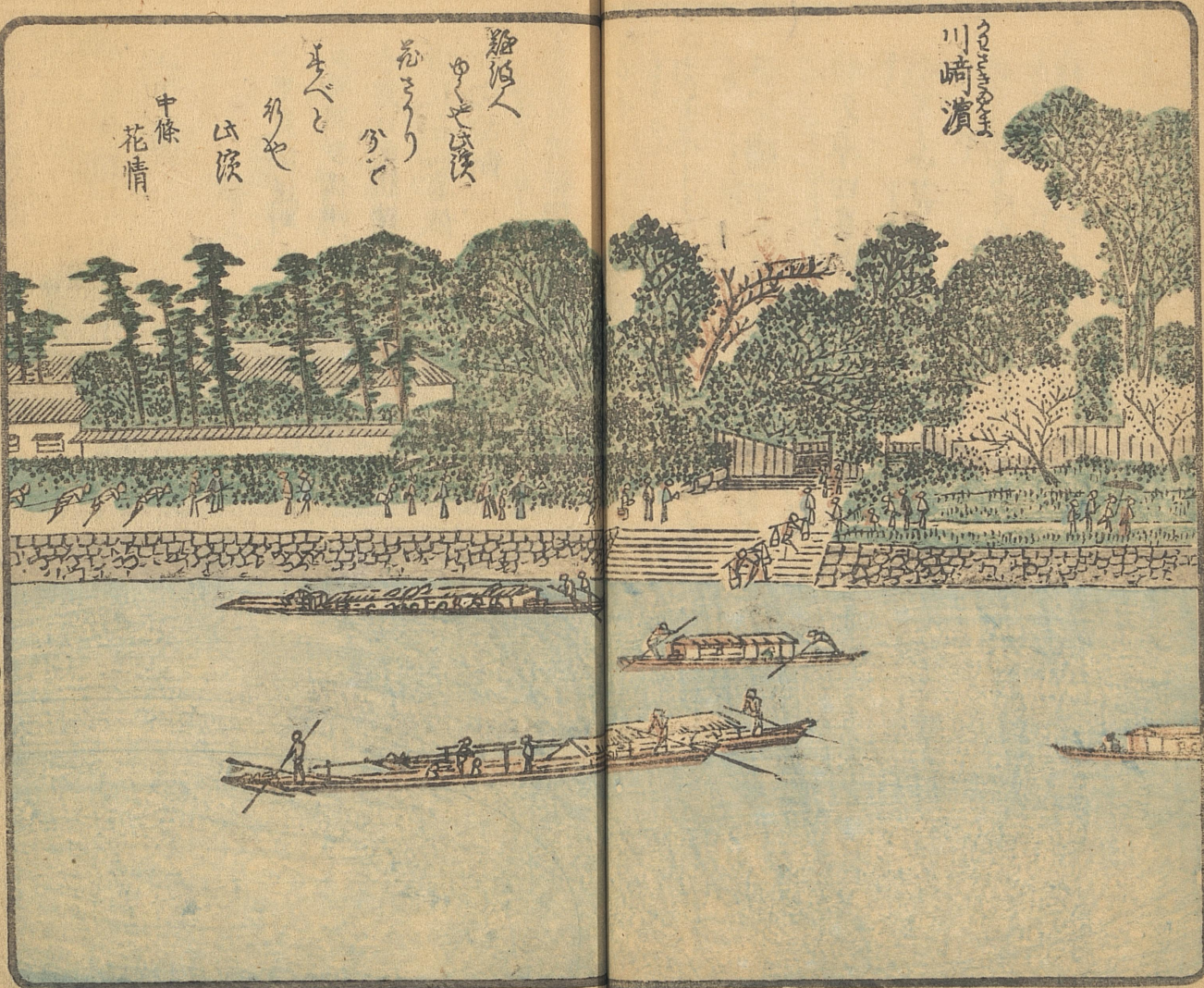
長と

舟や

山溪

中條

花情



川崎濱

川崎濱



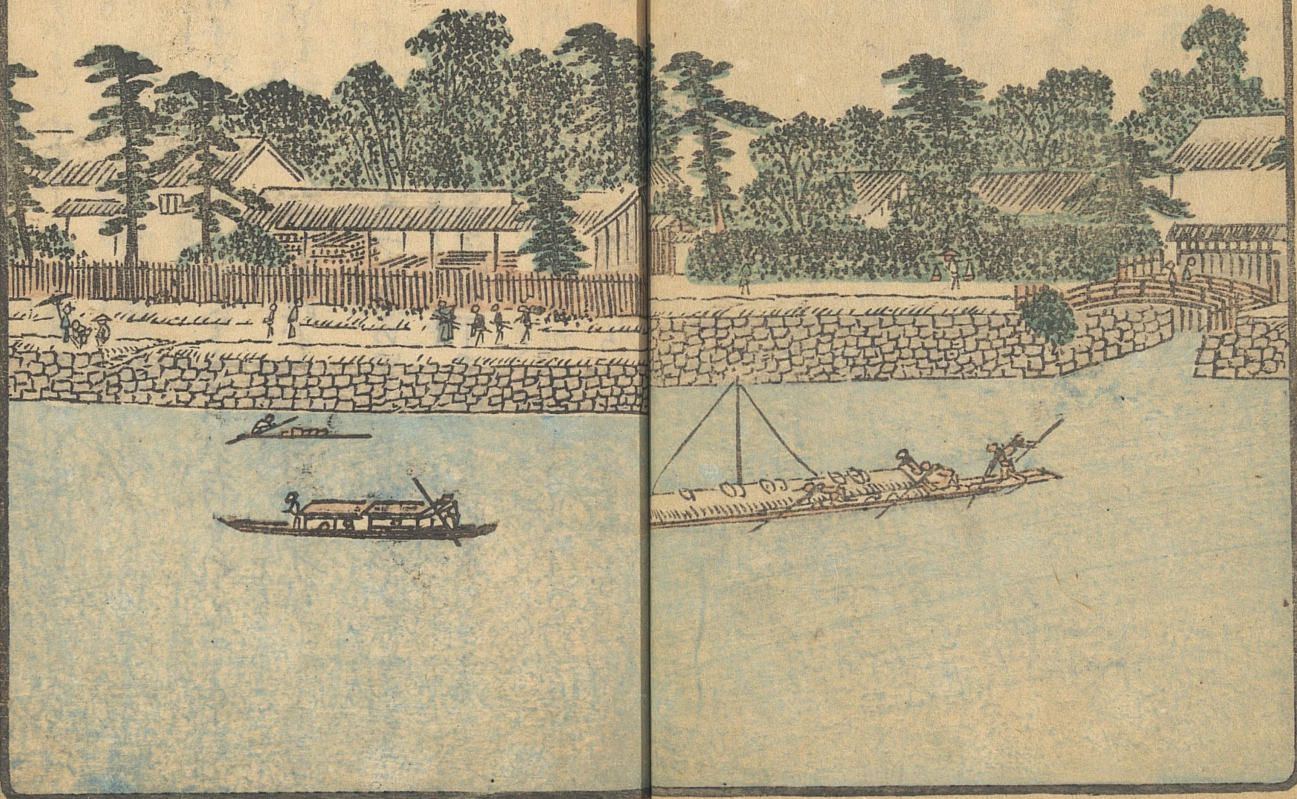
其二  
御材木藏  
秋橋

十里流澗送野  
航曉風夢後拂  
春霜江南韻蹟  
梅花在向客依  
依吹古香

嶋棕隱

委函の  
あざう後ま  
とらう

さうの  
如くよ  
清くまふ  
渡人



下  
二  
三  
四  
五  
六  
七  
八  
九  
十



必ははる事いふらんあやと下福るれも聖人のいふもあはる  
 鞠もかゝる所と踏出して後寧く思ふ必は落つ侍りやん  
 易繫辭曰君子は安んずるも危きと忘れ存するも亡んこと  
 亡れば治れども亂んこと忘れど是と以て身安んずる國家  
 保んずると實や高本よ上る者のいふも是よかまら下船の水主  
 楫取も又是は同じ淀川の長流と下り既ハ軒家の見あり心  
 まるも怠る則は必は過ち有るな此あはつて大切なるは  
 所理なり松本松の着るて脱び心ありて過とていふ

菜蔬市場

天神橋北詰の東に西と市の傍  
 へ荒れ乾物の商家あり

此市場は日々朝毎に菜蔬と高くと春の初の初市より暮の  
 終市まで一日も怠ることもなく賣買市人鳥の行くに集ひ

鱈の如く華る其盛るる甚し  
 原此市場は京橋南詰にあり年々

京橋北詰片原町より引らる然るに商人の往來もつひちり  
 殆ど免され今の所よりつひちり

天満天神社

右市場の北にあり正通と  
 九丁目より西へ行く内なるなり

- 本社中央 大自在天神 相殿
- 東二 手力雄命 西二 後田彦大神
- 東三 法性坊尊意 西三 蛭兒尊
- 其餘社頭は末社多く神輿庫 宝庫 文庫 繪馬舎 廻廊 窺々なり



菜蔬市場

天神橋

世習滔々趨移奢

嘗新薦異競相誇

詩人欲賦苦無例

九月龍孫十月仄

廣瀬謙

名橋てハ

まゝと花瓜と

市乃例

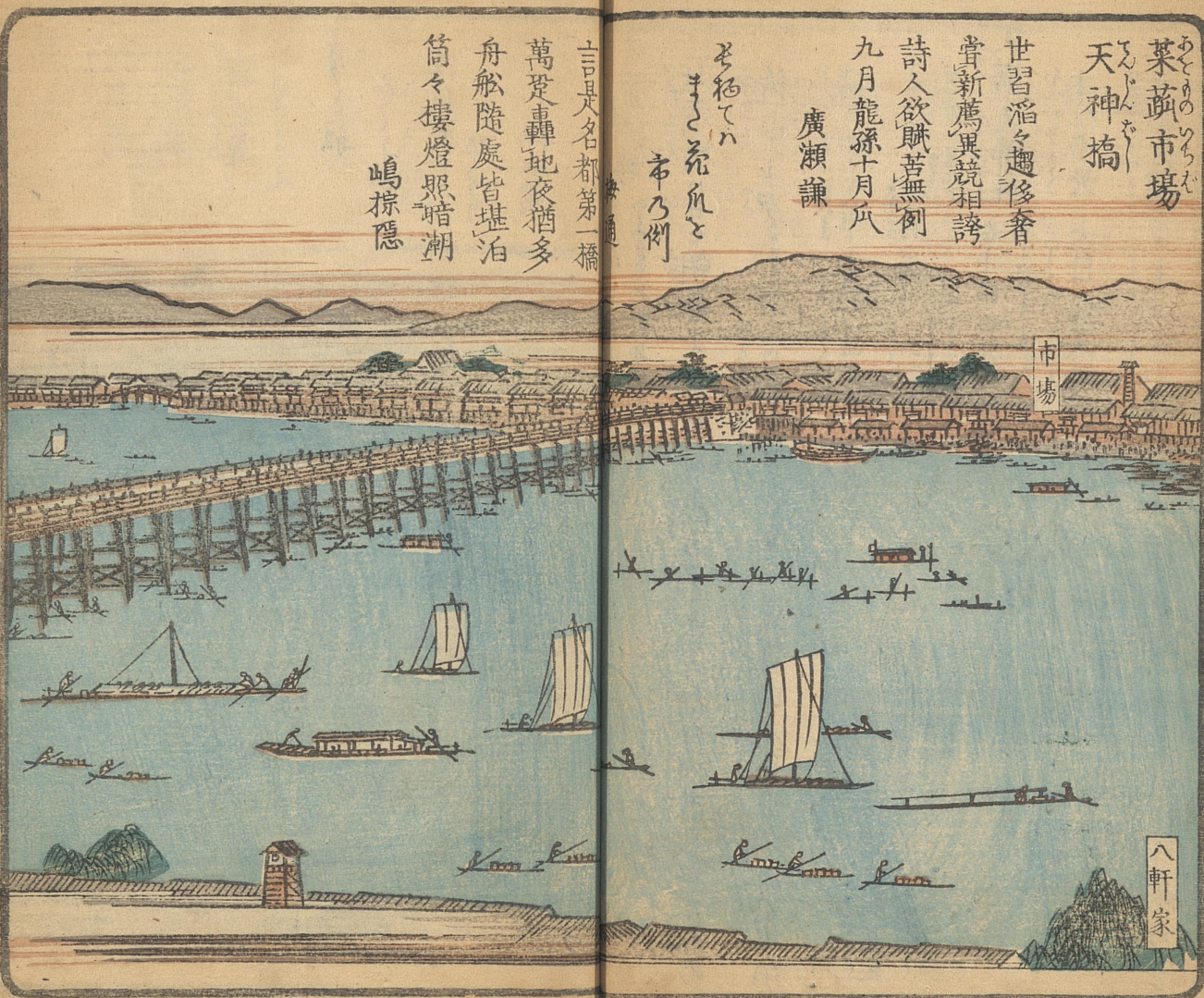
言是名都第一橋

萬足轉地夜猶多

舟船隨處皆堪泊

筒々樓燈照暗潮

鳴掠隱



八軒家

市場

下リニハ

州三



其二

難波橋

鍋島之濱

山崎之鼻

舟と船

きしや

橋た石

ひつり

伴水園

またらひ

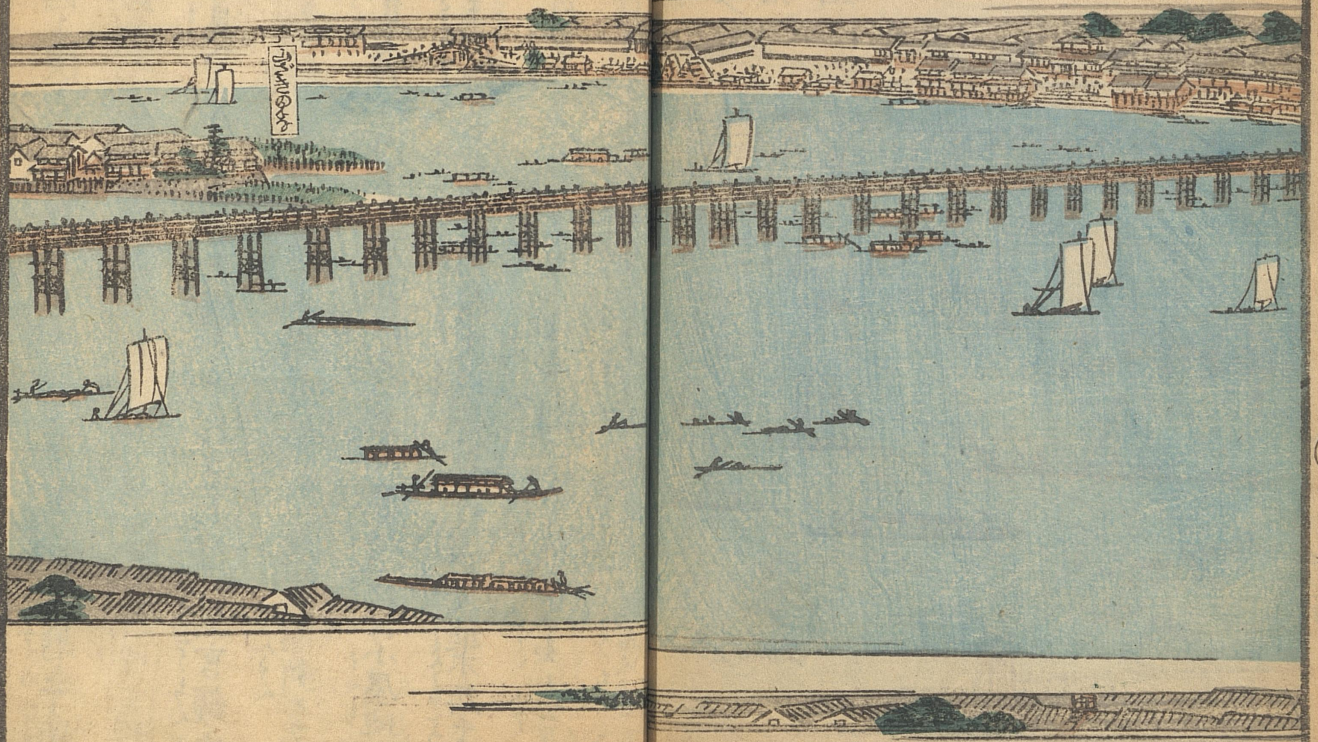
まはの

橋と夕風也

ちと山崎の

まきまき

旗原



阿波岐



此地ハ往昔北西ノ續キ一松原アリ一カ 村上天皇 天皇 天曆年間

勅願ヨリツク初メク建立一給テ所アリトモ故ニ天神松原天神の

森ヨリ古書ニ見テテ地名と天満と号シテハ天満宮鎮座

一給テ故テテ程ニ靈驗アリテされハ四時ニ詣人間断テ

遠近ヨリ群集テ社内ヨリ昔勸テハ軍書講釈ノ小屋地上

ノ放下師品玉怪業ノ藝新内祭文流行歌ノ讀賣植木店ヲ

菓ヲ預手花見ノ物有ると地ヲセテマテ到テテ賑ハルニ言ハ

奇品ノ商家軒トテテ繁昌ナルハ皆菅神ノ余光トシ

テ一例祭六月廿五日ハ鉾流ノ神事ト号シテ神輿戎鳴ノ行

宮ニ渡申テ其壯觀ノ美景有テテ世俗音ノ知テテ又九月

廿五日ハ秋祭ノ神事行テ流鑄馬ノ式アリテ殊ニ盛ニテ例

月廿五日ハ法人群トテテ就中正月ハ初天神トテテ祭奉テテ充

一錐ト立テテ寸地ヲテテ所謂早春ノ天後日ナリ

天神橋 北詰ハ天満十丁目南詰ハ京橋六丁目トシテ川上トテテ第二の大橋ニ

長サ百二十間三尺

當橋ノ北詰通ハ十丁目條ト号シテ夫テテ數ノ町トテテ長柄ノ



渡にふ通じ高槻山寺と過く京師に至るの街道なり且近御

便宜の通路なりと諸商家軒とるる萬端のとひるたたる事は

さる程に結人遊客のび諸色のとひる農夫天満宮の詣人街

に混じ終日雨静の時とあはる浪元北方第一の勢を収り

南結の東に八軒家の船岸として是又昼夜とひる駈り此河

より物に船に此よとひる故に船客のめく是より上陸は又

東堀道頓堀の船の橋の下より東堀と下は北濱西横堀の船

大川と下は難波場船の船の尚土佐堀と西は下は船客のめく

其便宜に隨ひ無憂に着岸のくると甚愛度し尚難波

場風景の前よりく著せが畧くくまの筆とてとむ

奈  
心めく人に見せが津國の船波りとのちれく此河 能因法師

淀河條道法

○伏見豊後橋より大坂西川口まで十三里四丁十三間

○豊後橋より波小橋まで一里七丁十間 ○淀小橋より江口三頭まで壹寺里間

○江口三頭より長柄三頭まで二里五丁間 ○長柄三頭より天満橋まで卅五町八間

○天満橋より川原津新里まで二里三町間 ○波水車より大坂屋橋まで水勾塔 八丈四尺五寸五分

淀川兩岸一覽下船之卷 大尾



浪華

曉前鐘成晴翁著述

同

松川半山畫圖

皇都

鎌田醉翁備筆

宇治川兩岸一覽

曉晴翁著 中本  
松川半山画 全二冊

文久三癸亥年序表發行

書

江戸日本橋通 山崎屋佐之助

山崎屋佐之助

京都麩屋町 儀屋清之助

儀屋清之助

肆

大坂心齋橋通 河内屋吉次郎

河内屋吉次郎



